

日吉台地下壕保存の会会報

第85号

日吉台地下壕保存の会

第15回川崎・横浜平和のための戦争展 「戦争遺跡がいま問いかけるもの」 —私の街から戦争が見える—

日吉台地下壕保存の会は発足から一貫して、戦争と平和の問題を考え続け、今年で第15回目になる。

「川崎・横浜平和のための戦争展」の主催団体の一つとして関わってきました。今年は日本国憲法が施行されてから60年目の年であり、日中全面戦争が開始されて70年目の節目の年にあたります。この年に標記の主題で今年も下記の要領で戦争展を実施します。(別紙チラシもご参照下さい。)

今年の戦争展は「戦争とは何であったか」を考えるために、「戦争遺跡」に焦点を当て、学び直すことを主眼としています。また「ひょっこりひょうたん島」の人形劇団「ひとみ座」による人形劇や若者による発表も企画されています。保存の会の皆さま始め多くの方々のご参加をお待ちしております。

期日 2007年12月15日(土)～16日(日)

場所 川崎平和館 (東横線元住吉駅から徒歩10分
綱島街道を武蔵小杉駅方向へ、関東労災病院を過ぎて中原平和公園隣)

第一日目 12月15日(土)
13:00～14:00 ひとみ座人形劇「9条君の運命」

第二日目 12月16日(日)
10:00～12:00 若者の発表
14:00～15:30
シンポジウム「戦争遺跡が今問いかけるもの」

パネリスト 十菱駿武さん(戦争遺跡保存全国ネット)
新井揆博さん(日吉台地下壕保存の会)
白井厚さん(慶応大学名誉教授)
矢澤康祐さん(旧登戸研究所の保存を求める川崎市民の会)
司会 渡辺賢二さん(明治大学講師)

パネル展示(両日)
登戸・日吉の戦争遺跡
市民が描いた絵画「戦争の記憶」

第15回 川崎・横浜平和のための戦争展2007実施要項

1、趣旨および経緯

1992年12月、私たちは第1回「川崎・横浜 平和のための戦争展」を、ここ川崎市平和館で開催しました。登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕・日吉台地下壕の調査研究と見学案内を、別々に行っていた団体と個人が実行委員会をつくり、講演と写真展示などを通して、多くの人に、これらの戦争遺跡の存在を知ってもらい、保存し活用の道を見つけるためでした。全国的にも、アジア太平洋戦争の敗戦40年目のころから、戦争の実相を語り伝えるモノとして、各地にのこる戦争遺跡が見直されるようになりました。15年前は、「平和館」と名づけられた施設をもつ地方自治体は、まだ川崎市くらいではなかったかという時代で、「平和」を推進する市民の事業のため、市職員が実行委員会にくわわるといふ、画期的な企画でした。以来、川崎市での会場は、平和館です。

1年おきに、横浜でも開催しましたが、会場えらびには大変な苦労がありました。大倉山記念館(第2回)や、かながわ県民センター(第4・6回)でも行いましたが、展示スペースの広い会場を希望日にとるのは、宝くじに当たるくらい難しくなりました。そんな折、第8回は慶應大学日吉キャンパス藤山記念館での開催となりました。慶應構内で開くことは、最初からの希望でしたが、夢の夢で終わるのかと、諦めかけていただけに、大きな出来事でした。その後日吉台地下壕保存の会が、慶応義塾のあるプロジェクトの一員となったので、その一環として3年連続(10・11・12回)日吉キャンパス来往舎で、戦時下の大学に焦点をあてた充実した講演と展示を行うことができました。

ふり返ると14回の歴史には、それぞれの意義と重みがあります。なかでも記念すべきは9回目、第5回戦争遺跡保存全国シンポジウムと並立開催し、平和館に全国の戦跡保存ネットワークの会員がつどい、写真展示や分科会発表など、大変な盛会でした。なかでも400人以上の熱気に包まれた澤地久枝さんの記念講演は、まさに圧巻でした。

年ごとにテーマは変わりますが、私たちは、いつも「私の街から戦争が見える」という言葉を基底においています。私たちが、日常を暮らすこの地域の戦時下の出来事を知り、自分の目線で現在と過去を重ねてみると、その時はじめて戦争遺跡が、現実感をもって見る者に語り始めるのです。歴史の学習の場としての児童生徒の見学が増えている現状をみると、戦争遺跡と見学者との仲介役としての、私たち案内人の責任は、ますます重くなるといえましょう。

私たちは毎年、その時々伝えるべきことを、テーマとして選びました。15回目の今年、原点にかえり「戦争遺跡がいま問いかけるもの——私の街から戦争がみえる——」と掲げました。急速に重苦しさを増す「いま」こそ、ひとりでも多くの方に、12月15・16日には川崎市平和館まで足を運び、ともに考えていただきたいと、切に願っています。ご来場をお待ちしております。

2、テーマ

《 戦争遺跡がいま問いかけるもの 》

——私の街から戦争が見える——

3、主催・後援・実施団体

主 催 川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会

後 援 川崎市(予定)

実施団体 日吉台地下壕保存の会

蟹ヶ谷通身体地下壕保存の会

旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会

4、代 表 新井 揆博 戦争遺跡全国ネットワーク運営委員(蟹ヶ谷通身体地下壕保存の会代表・日吉台地下壕保存の会副会長)

副代表 大西 章 日吉台地下壕保存の会会長・慶応義塾高校教員

矢澤 康祐 旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会協同代表
専修大学名誉教授

渡辺 賢二 明治大学講師

顧 問 白井 厚 慶応義塾大学名誉教授

須田輪太郎 人形劇作家

5、開催日程 2007年12月15日(土)午後1時～16日(日)午後4時

6、会 場 川崎市平和館 川崎市中原区木月33-1 044-433-0171
入場無料

7、内 容

○展示 15日13時～17時 16日10時～16時

戦争遺跡の写真・実物資料(にせ札・墨ぬり教科書)・市民の描いた戦争の記憶他

○公演・シンポジウム

人形劇 「9条君の運命」人形劇団ひとみ座 15日13～14時

若者の発表「いまと歴史と歴史教育 それぞれの視点から」16日10～12時

シンポジウム「戦争遺跡がいま問いかけるもの」16日14～16時

パネリスト 十菱駿武(戦争遺跡全国ネット代表)・新井揆博・白井厚
矢澤康祐

○他にビデオ上映・紙芝居・展示案内あり

8、プレイベント 日吉台地下壕 11月24日13時～(連)045-562-0443 喜田

登戸研究所 12月1日9時50分～(連)044-922-5347 宮永

9、運 営 実施団体で実行委員会を組織し、企画運営にあたる。

10、連絡先 亀岡敦子 Tel 045-561-2758

港北区ふるさとサポート事業

ピースロードふるさと港北PART3 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座

好評実施中

この講座は3年前に港北区が地域活性化の一環として始めた事業に応募して始めた講座です。今年で応募して3回目になります。応募した目的は

- ① 日吉台地下壕をより多くの人に知ってもらうこと
- ② 地域住民の方と一緒に運動を進めたいこと
- ③ ガイドが出来る人を増やしたいこと
- ④ ガイド養成講座を通じて我々もいろいろと勉強できること

などがあります。

昨年までの2回を通じていろいろな方とめぐり合い、勉強を重ねてまいりました。見学会をお手伝いしてくれる方、ガイドをしてくれる方、HP作成をしてくれる方など仲間が増えました。大変嬉しく思っています。

また、今年で地下壕保存の会が発足19年目になります。細々ですがたくさんの方々の協力で運動が続いています。継続する秘訣は自分の生活を大切にすることだと思っています。自分の生活に少し余裕が出来たら、少し出来ることをお手伝いしてみようが基本的な考えだと思っています。この私自身も高校の教員をしているために土日の時間がほとんど取れず、まだガイドを出来るほどの力もありません。しかし、何かお手伝いできることがあると思って、今やっています。これからも余裕が出来たら一緒に勉強をしたいと考えています。

今日お集まりの方も少し何か手伝い出来る、一緒に勉強をしてみたいと思いましたら、我々と一緒にやってみましょう。陽気にやってみようと思っています。

日吉台地下壕保存の会会長 大西 章

日吉の戦争遺跡ガイド体験講座

～戦争遺跡を歩いて平和の語り部となろう～

第1回 10月6日(土)

講座「戦争遺跡ガイドのすすめ」

日吉の戦争遺跡の特徴とガイドの心得

講師 新井揆博

慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎

10:00～12:00

会長開講挨拶(代読)の後、レジュメに従って、「戦争遺跡とは」「日吉の街に戦争があった」「日吉の戦争遺跡の特長」「戦争末期の日吉」について全般的な説明が簡潔に行われました。その後「戦争



遺跡ガイドの心得」として“戦争から平和を考える必要性”が述べられ、“ガイドは教えてあげるのではなく見学者と一緒に学び合いながらガイドするのだ”ということの重要性が強調されました。

慶応義塾大学日吉キャンパス付近の戦争遺跡見学 13:00～15:30

慶応大学日吉キャンパス体育館裏から矢上方面へ、テニスコートから航空本部地下壕、寄宿舍方面の戦争遺跡を廻りました。



第2回 10月20日(土)

講座「近代日本の戦争を問い直す」講師 渡辺賢二(明治大学講師)

慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎 10:00～12:00

「今私達に求められるもの」

戦争の記憶が薄まる中、「沖縄戦での集団自決はなかった」などの「歴史修正主義」の主張が現れ、多くのメディアを通じてなされている。私達は、歴史研究、歴史教育、歴史叙述を三位一体として事実に基づく捉え方をしていく必要がある。

「近代日本の戦争を問い直す」

近代日本の戦争の総括として「戦陣訓」に見られるように「生命」を軽視する視点、日露戦争を「勝利」したものとして、そこから考える視点、軍国美談、軍神観に見られる「誤り」を認めず、「歪めて」しまう視点、

国際法規を守る立場に立たず国民の権利が認められない国内法の視点が挙げられた。

「近代日本の戦争を問い直し、日吉台地下壕で考えるもの」

連合艦隊司令部がなぜ丘に登ったのか、なぜ特攻を考え出したのかを考え、日本海軍「善玉」説の見直し。日吉台、沖縄、アジア、松代、太平洋岸を連動させて考える。日吉から「生命」の軽重を考える。世界・アジアを知り、国際法の重視と日本国憲法の重要性を考える。海軍に対する歴史叙述を見直す。

以上の視点を詳細な史料をもとに簡潔、明瞭に指摘されました。



渡辺賢二氏(明治大学講師)

箕輪、日吉の丘公園方面の戦争遺跡見学

13:30～16:00

日吉台小学校から箕輪艦政本部地下壕、大聖院まで廻り、途中箕輪の艦政本部地下壕工場の飯場跡付近で戦争直後の付近の様子をご存じの方から貴重な体験談をお聴きすることができました。

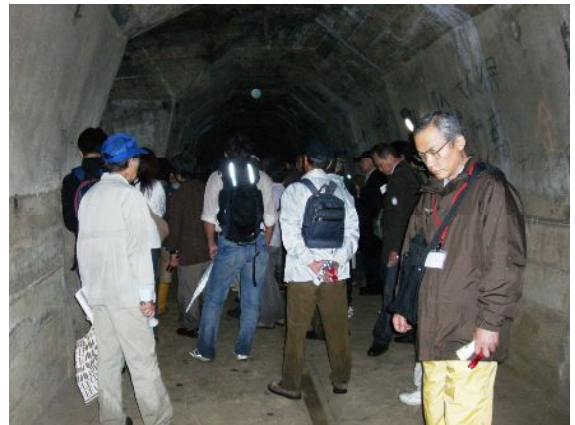


第3回 10月27日(土)

日吉台連合艦隊司令部地下壕見学

13:00～15:30

定例の見学会の日で、生憎の悪天候でしたが、連合艦隊司令部地下壕を見学、講座参加者の方々に各自ガイドしてみたいポイントを決めていただき、メモを作ってきていただくようお願いしました。



【今後の予定】

第4回 11月10日(土)

日吉台連合艦隊司令部地下壕見学

13:00～15:30

各自決めていただいたガイドしてみたいポイントを、ご報告いただき、ガイド実践出来る方からお願いできればと考えています。一人ではなくグループでも構いません。まず一步踏み出してみましよう。

第5回 12月1日(土) 日吉台連合艦隊司令部地下壕見学 13:00～15:30

前回に引き続き各自決めていただいたガイドしてみたいポイントを、ガイド実践出来る方からお願いします。グループでも構いません。できれば全員の方に実践体験していただければと考えています。

第6回 2008年1月19日(土) まとめの討論「日吉の戦争遺跡の伝えるものは」

慶応義塾大学日吉キャンパス 来往舎中会議室 13:00～15:30

閉講式

寄稿

旧陸軍登戸研究所見学会に参加して

市川公子

「特別見学会」7月21日登戸研究所見学会に参加しました。案内役はガイド養成講座で講師をして頂いている渡辺賢二さんです。

小田急生田駅に26名が集まり、明治大学生田校舎(理工学部・農学部)に向かいました。最初は校舎奥の「動物慰霊碑」です。動物となっていますが、犠牲者の慰霊の意味もあるのではないかという説明でした。次に「陸軍消火栓」(☆のマーク付)の所では、風船爆弾「ふ号」作戦アメリカ本土に向けて9,000個の気球がここで作られ



ニセ札を印刷した第三科

放球されたということを当時の写真も示しながらの説明でした。また登戸研究所の研究者とあの帝銀事件との関わり（の疑い？）という興味深い話もされました。

「対支経済謀略」の中心であるニセ札を印刷した第三科の木造建築に行きました。ここで45億円も作られインフレ・軍需物購入・給料に利用されました。今は緑のシダに覆われた趣のある建物ですが、ここで謀略・実験が行われたことを思うとゾッとしました。

農学部の実験棟を通して現在も研究室として使われているコンクリート作りの第二科に行きました。ここは明治大学が「資料館」として残し、学生への学習・市民への開放の場となるそうです。最後に「弥心神社」に向かいました。

現存する建物を前にしての「研究所」の内容は深く実感できました。



ニセ札

寄稿

靖国神社・遊就館 見学

渡辺 清

靖国神社・遊就館の見学会が東海林次男（戦争遺跡保存全国ネット運営委員）、石橋星志（東京の戦争遺跡を歩く会）お二人のガイドで行われました。

「靖国神社」 東京都千代田区九段にある神社。国事に殉じた者の霊を祀るために1869年（明治2年）招魂社として設立。1879年現在名に改称。明治維新から第二次世界大戦に至る戦死者240万余柱を合祀。その後1985年神社側は刑死・獄死したA級戦犯14人を密かに合祀。

「遊就館」 1882年（明治15年）軍事博物館として開館、関東大震災で大半が崩壊したため、仮館での開館の後1931年（昭和6年）新館が竣工。戦後は連合国司令部の命令で靖国神社宝物館と改めました。富国徴兵保険との縁故もあって、1947年から1980年までは富国生命保険の本社社屋として賃貸されていましたが、1986年に改修され、遊就館として再スタート、2002年に入口部分を増設、展示内容も全面的にリニューアル。祀られている戦死者の遺品や武器、戦争画等の展示は近代日本の戦争記念館の趣がある。

靖国神社・遊就館を単なる東京の観光施設として訪れる人も多いと言う。境内に掛けてある絵馬を見ると「〇〇大学に合格しますように」などと書いてある。祀られている戦争で亡くなった人に頼むのもおかしいのでは？ A級戦犯者も昭和殉難者だと言い祀っている。展示物の説明についても戦争や当時の教育を正当化するような解説も目立つ。

私は戦争の悲惨さ、二度と起こしてはいけない戦争を改めて感じました。



狛犬の前で説明をうける見学者

●活動の記録 2007年9月~11月

- 9/14 運営委員会 会報84号発送(慶応高校物理教室)
- 9/22 定例見学会 午前・午後 98名
- 9/29 定例見学会 9名
- 10/6 第1回ガイド養成講座(来往舎会議室・フィールドワーク日吉キャンパスを歩く)
慶応大学・ヒヨシエイジの Agefes 07に参加、来往舎前テントで展示・書籍販売など
- 10/17 平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校)
- 10/20 第2回ガイド養成講座(来往舎会議室・フィールドワーク箕輪界限を歩く)
- 10/23 運営委員会(慶応高校物理教室)
- 10/27 定例見学会(第3回ガイド講座) 32名(台風接近のためコース途中で切上げ)
- 10/30 地下壕見学会 篠原小学校 6年生 85名
- 10/31 地下壕見学会 川崎市立西生田中学校 1年生 124名
日吉台小学校 6年生と「日吉の戦争遺跡について」説明・交流(日吉台小学校 6年教室)
- 11/5 地下壕見学会 港北区生涯学級 61名
- 11/7 地下壕見学会 慶応高校 3年生 22名
- 11/10 第4回ガイド養成講座(地下壕見学ガイド実習)
- 11/12 平和のための戦争展実行委員会(法政第二高校)
- 予定
- 11/14 運営委員会 会報85号発送
《 地下壕見学会の予定 》
- 定例 11/24・12/22・1/26



見学会ガイドレポート参加のご連絡は見学会窓口まで。お待ちしております。

定例見学会は毎月第4土曜日に行っています。なお日程が変わる場合もありますので必ず見学窓口に申し込んでください。(見学申込先 TEL&FAX045-562-0443 喜田)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758
(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443
ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/> (新アドレス)

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
日吉台地下壕保存の会運営委員会